

## いあいさつ

昭和館は、戦没者遺族の援護施策の一環として、戦没者遺族をはじめとする国民が体験した、戦中・戦後の国民生活上の労苦を、後世に伝えてゆくために、厚生省（現・厚生労働省）が設置した国立の施設です。

平成十一年三月に開館して以来、平成十三年度末までにのべ五〇万人を超える方々に来館していただき、陳列室の見学、図書室や映像・音響室の利用をしていただきました。このように多くの方々に来館していただきましたことは、当館の運営に当たりまして、日頃からご協力いただいております。関係機関、関係者各位のお陰と、心からお礼を申し上げます。

さて、昭和館も開館以来三年を経過し、このたび館の活動の一つとして本誌を刊行する運びとなりました。今回は第一号ということもあり、昭和館の基本方針である「戦中・戦後に国民が体験した労苦を後世代に伝える」というテーマの下、全体を三部構成にし、「戦没者遺族の労苦について」「遺族に関わる援護政策の体系」「戦中・戦後における国民生活の変容」をテーマといたしました。今回はこのテーマに沿い、専門家あるいはその時代の経験者に執筆を依頼し、短い準備期間ながらも玉稿をいただくことができ深謝いたしております。これからの昭和館における研究活動の指針とさせていただきます。今後は順次、昭和館ならではの調査に基づいた研究を進めてまいります。さらに、これらの研究成果を常設陳列室や特別企画展などへと反映させていきたいと考えています。

また、巻末には、昭和館で収蔵しています戦没者遺族関連図書資料の目録を付しました。当館には、一〇万冊近い蔵書がありますが、これらの図書資料は、日々失われて行く労苦の記録を多くの方々のご協力をいただきながら収集したものであり、若い世代の人々にも有効に利用していただきたいと思っております。

今後も、更に多くの資料を収集保存し、忘れてはならない苦難の時代の姿を、後世に伝えるために努力していく所存でありますので、一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成十四年十二月